

# Oracle SOA Suite 12c



クラウドとオンプレミスの統合  
モバイル対応  
モノのインターネットの架け橋  
優れたスケーラビリティ  
完全 | 統合型 | オープン

## おもな機能

- モバイルへの対応
  - REST/JSON のサポート
  - スケーラビリティと待機時間の短縮に役立つ組込みキャッシュ
- クラウドの統合
  - クラウド・アプリケーションとオンプレミス・アプリケーションを統合する単一の統合プラットフォーム
  - 代表的な SaaS アプリケーションの統合を簡素化する専用のクラウド・アダプタ
  - 幅広い Web サービス・サポート
  - コンパニオン製品 (Oracle Managed File Transfer) を使用したファイルベースの交換のサポート
- モノのインターネット
  - モノのインターネット (IoT) 環境と SOA 環境間のギャップを埋める Oracle Event Processing
  - 各種デバイスから流入する大量のデータ・ストリームから有用なパターンを抽出

クラウドベース・アプリケーションが企業に急速に普及したうえ、モバイル・テクノロジーによるアプリケーション統合の要望もあるため、アプリケーション統合の複雑さは劇的に増加し続けています。アプリケーション統合と SOA を一体化させた業界でもっとも完成度が高いソリューションの最新バージョンである Oracle SOA Suite 12c が、この課題を解決します。クラウド、モバイル、オンプレミス、そしてモノのインターネット (IoT) を統合するための機能が簡素化され、すべてが単一のプラットフォームに搭載されています。Oracle SOA Suite 12c を使用することで、統合期間が短縮され、生産性が向上し、TCO を削減できます。

## 製品概要

Oracle SOA Suite は、サービス指向アーキテクチャ (SOA) の概念に従って統合を構築、デプロイ、および管理することを目的とした標準ベースの包括的なソフトウェア・スイートです。一貫したツール、単一モデルによるデプロイメントと管理、エンド・ツー・エンドのセキュリティ、統合メタデータ管理などの共通機能は、このスイートを構成する各コンポーネントでも使用できます。

Oracle SOA Suite を導入すると、稼働している環境 (OS、アプリケーション・サーバーなど) や基盤にあるテクノロジーに関係なく、既存の IT 投資および IT 資産を最大限に再利用できるため、コスト削減に効果があります。再利用に重点を置いた統合アプリケーション開発ツールは使いやすく、エンド・ツー・エンドのライフ・サイクル管理がサポートされていることもあり、開発と保守にかかるコストとそれらの複雑さがさらに抑制されます。

## 機能およびコンポーネント

下の図に示すとおり、Oracle SOA Suite の機能は、接続性、サービスの仮想化、オーケストレーション、分析という 4 つのグループに大きく分類されます。

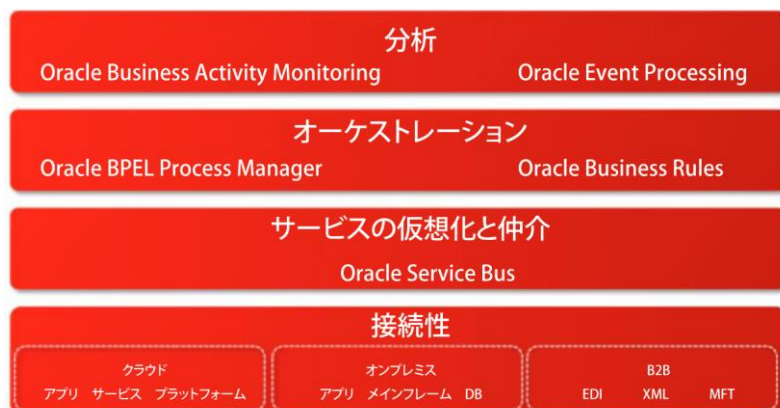


図 1. Oracle SOA Suite の機能コンポーネント

- 高い開発生産性
  - 種類の異なるコンポーネントから複合アプリケーションを組み立てられるグラフィカル・エディタ
  - 標準に完全準拠したメタデータ主導
- 卓越したパフォーマンスとスケーラビリティ
  - イベントとサービスに対応した統合ランタイム
  - Oracle クラウド・アプリケーション基盤のなかめである Oracle WebLogic Server 上で稼働
  - 世界中にいる何千人もの顧客から毎日何百万と発生する重要なトランザクションをサポート
  - 高可用性 (HA) 構成にデプロイ可能で多数のディザスタ・リカバリ設定 (アクティブ・アクティブなど) をサポート
- ブラガブル・サービス
  - BPEL Process Manager (主要なステートフル・オーケストレーション・エンジン)
  - Oracle Human Workflow
  - Business Rules
  - B2B
  - Business Activity Monitoring
  - Oracle Enterprise Scheduler
- Oracle Service Bus
  - マルチプロトコルのエンタープライズ・サービス・バス (ESB)
  - 業界一のパフォーマンスとスケーラビリティ
- 接続性
  - 主要なアプリケーション、テクノロジーおよびメインフレームのすべてに対応する 300 以上のアプリケーション・アダプタの動作を保証
  - EDI、ebXML、RosettaNet および他の業界標準向けの専用 B2B アダプタ
  - クラウド・アプリケーションとオンプレミス・アプリケーション間の接続性の統一
- 管理および監視の統合
  - 統合フローを単一の画面で管理および監視できる機能を Oracle Enterprise Manager Fusion Middleware Control に搭載
  - エンド・ツー・エンドのインスタンス追跡
  - システムおよびビジネスの例外管理ができるワンストップ・ソリューション

## 接続性

Oracle SOA Suite の接続性レイヤーは対応範囲が非常に広いため、社内はもちろん社外のほとんどすべてのデータソースとの接続が可能です。Oracle Adapters は、300 を超えるパッケージ型クラウド・アプリケーションやオンプレミス・アプリケーション、テクノロジー・レガシーおよびメインフレームに対応したものが用意されています。また、B2B 機能と Managed File Transfer 機能が含まれているため、外部のビジネス・パートナーへプロセスを拡張することも可能です。

### クラウド・アプリケーション・アダプタ

新型のクラウド・アダプタでは、代表的なクラウド・アプリケーションとの接続機能を簡単な作業で開発および管理できるようになっており、クラウド・アプリケーションとオンプレミス・アプリケーションがシームレスに統合されます。ネイティブな Web サービスを統合する場合は慣れるまでに時間がかかるものですが、グラフィカルなウィザードを使用することでクラウド・アプリケーションごとの相違点が抽象化され、習熟期間が短縮されます。

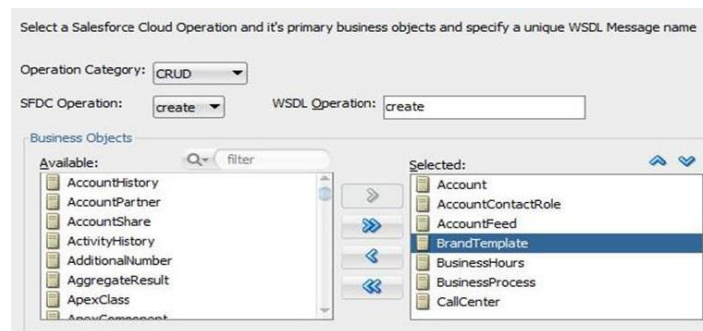


図 2.ウィザードを使ってクラウド・アダプタを構成する場合は、選択可能なオブジェクトと操作を参照することができます。

### アプリケーション・アダプタとテクノロジー・アダプタ

Oracle、SAP、Microsoft といったさまざまなベンダーが提供している ERP システムや CRM アプリケーションなどのエンタープライズ・アプリケーションに接続する場合は、Oracle SOA Suite 向けに構築された数百種類の市販のアダプタを使用できます。SOAP、REST、FTP、Files、Database、AQ、Tuxedo、VSAM、CICS、IBM MQ Series および JMS をはじめとするテクノロジー・アダプタを使用すれば、資産を解放してほぼすべての IT システムに接続できます。

### B2B 接続性

統合の対象はもはや社内システムにとどまらず、ビジネス・パートナーやアウトソーシング・パートナーが提供する機能も統合対象に含める必要があります。データ交換の範囲をファイアウォールの外にまで広げる必要があるため、固有のプロトコルやテクノロジーが必要になることがよくあります。

Oracle SOA Suite では、このカテゴリに含まれる 2 つの重要なコンポーネントを活用できます。1 つは Oracle B2B です。これは EDI、ebXML、RosettaNet などの各種プロトコルおよびフォーマットを処理するコンポーネントです。もう 1 つは Oracle Managed File Transfer (Oracle MFT) です。これは Oracle SOA Suite の新しいコンパニオン製品で、現在は一般的に FTP で処理されるファイル転送を管理および監視するグローバルな一元化されたインフラストラクチャを提供するコンポーネントです。

- 統合セキュリティ
  - 集中型ポリシー管理
  - 設計時または実行時のポリシー・アタッチメント
- 組込みのリアルタイム可視性
  - Web ダッシュボード
  - リアルタイム分析
  - イベント処理
- ガバナンス対応
  - Oracle JDeveloper から直接のサービスの公開、共有、および検出
  - 依存性および影響の分析

#### おもな利点

Oracle SOA Suite の導入により、可視性、柔軟性、スピードがもたらされます。ベスト・オブ・ブリードのツールの採用により、各コンポーネントに業界屈指の機能が提供されます。緊密に統合された包括的なスイートが、総所有コストを削減します。

## サービスの仮想化

Oracle Service Bus は、持続可能な統合アーキテクチャに必須の重要な仮想化レイヤーを提供するエンタープライズ・サービス・バス (ESB) です。Oracle Service Bus を使用すると、バックエンドで発生する可能性のある変化からサービス・コンシューマを保護できます。また、バックエンド・アプリケーションの基盤となる実装 (レガシー・プロトコルなど) の詳細は複雑で分かりにくいことが多いものですが、そうした詳細を開発者に見せないようにすることもできます。サービス・バスはあらゆるマルチチャンネル戦略、すなわちモバイル戦略のかなめです。メインフレームから ERP まで、任意のバックエンド・システムの標準 API (開発者がモバイル・アプリケーションで使用することもできる REST/JSON API など) を、数回のクリックで作成できます。

## オーケストレーション

Oracle BPEL Process Manager は独立した一連のサービスをエンド・ツー・エンドのプロセス・フローに組み立てるための使いやすいソリューションであり、これを導入することでプロセス統合のコストと複雑さを大きく削減できます。

Oracle BPEL エンジン、現在市販されているもののなかでもっとも完成度、スケーラビリティ、堅牢性が高い BPEL サーバーです。このエンジンでは標準の BPEL プロセスが実行されます。また、"デハイドレーション"機能を備えているため、長時間実行フローの状態がデータベースで自動的に維持され、フェイルオーバーとスケーラビリティの両方に対応したクラスタ化が可能です。Oracle SOA Suite に組み込まれているヒューマン・ワークフロー機能を使用すると、承認やレビューのプロセスに人を介在させることができます。

Oracle Business Rules は固有のビジネス・ロジックおよびビジネス・パラメータの外部化を可能にします。ビジネスの進化に応じて変化しやすい重要なパラメータやディシジョン・ツリー (割引きレベル、金利など) をビジネス・アナリストが容易に定義、更新、管理できるため、IT や開発者を煩わせる必要がなくなります。

## 分析

一貫した統合戦略がもたらす副次的メリットの 1 つは、コア・ビジネス・プロセスの可視性がかつてないほどよくなることです。情報とプロセスが個々のアプリケーションにサイロ化されていたころには、想像さえできなかったのがこの可視性です。Oracle SOA Suite には、このチャンスを存分に活用できる強力な分析ツールが搭載されています。

## Oracle Business Activity Monitoring (Oracle BAM)

Oracle Business Activity Monitoring を使用すると、双方向のグラフィカル・ダッシュボードを短時間で構成でき、ビジネス・プロセスのパフォーマンスをリアルタイムで確認できるだけでなく、特定の状況に対応することもできるようになります。

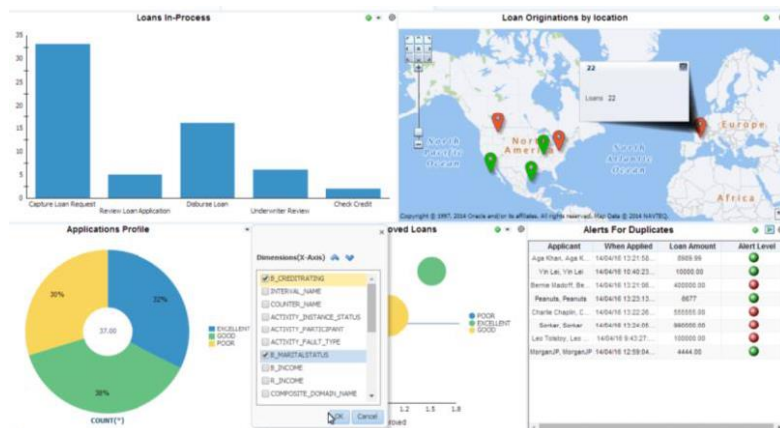


図3.Web ベースの対話型双方向ダッシュボードの構築に使用する Oracle Business Activity Monitoring

また、アラート条件をパーソナライズすることもできるため、その設定に基づいてアラートをトリガーし、電子メールや電話、または都合のよいその他のチャンネルへ配信することができます。

### Oracle Event Processing

Oracle Event Processing は Oracle SOA Suite のコンポーネントの 1 つで、各種アプリケーションから発生するイベントや場合によっては 1 秒当たり数百万件にもなる極めて大量のイベント・ストリームを相互に関連付け、非常に短い待機時間でリアルタイムにパターン検出や地理空間情報処理を実行します。企業は常時接続デバイスをデプロイしようとしていますが、そのようなデバイスは非常に気軽に使われ、それ自体にはほとんど価値がない情報が送信されがちです。ただし、そうした情報は、他のソースと関連付けると通常は大きな価値を持つようになります。Oracle Event Processing はこの IoT の課題に最適なツールであり、電話アプリケーションからリアルタイムで分析した情報、クレジットカードのトランザクション、メモリ・グリッドや NoSQL ストアや HDFS ストアに格納されているユーザー情報を使用し、リアルタイムで極めて正確なコンテキスト・マーケティングを可能にすることなど、新しいビジネス・チャンスの創出に使用されてきました。

### 直感的な開発、管理、および監視

Oracle SOA Suite は独立した複数のツールを単純にまとめたものではなく、統合製品として設計されたものであるため、重要なデプロイメント機能、セキュリティ機能、管理および監視機能はすべて、このスイートのコンポーネント全体で完全に統一されています。

SOA 複合アプリケーションは、最適化された統合インフラストラクチャである SOA サービス・インフラストラクチャ上にデプロイして実行されます。このインフラストラクチャは **WebLogic Server** および Oracle Coherence 上で稼働し、スケーラビリティ、高可用性、およびチューニングには WebLogic Server の高度な機能の数々が活用されます。

上記のすべてのコンポーネントの管理および監視は、Oracle Enterprise Manager Fusion Middleware Control にネイティブ統合された専用のスクリーンで実行できます。


企業データおよび個人を特定可能な情報（PII）のセキュリティへの注目と関心がかつてなく高まっています。同時に、分散されたサービス思考アーキテクチャのセキュリティ保護は、適切なツールなしでは複雑な作業になりかねません。Oracle SOA Suite では Oracle スタックの多種多様な機能を活用して、この分野において前例のないユーザビリティを実現しています。

### 現在と未来の課題に対応した製品

Oracle SOA Suite 12c が提供するプラットフォームは、ますます複雑になるクラウド環境、モバイル環境およびオンプレミス環境を簡素化するために企業が現在必要としているものです。既存のシステムを合理的に統合することで、企業は現在の課題だけでなく、将来的には長期にわたり発生する可能性のあるマルチチャネル要件にも対処できます。



CONNECT WITH US

-  [blogs.oracle.com/soa](http://blogs.oracle.com/soa)
-  [facebook.com/oraclesoa](https://facebook.com/oraclesoa)
-  [twitter.com/oraclesoa](https://twitter.com/oraclesoa)
-  [oracle.com/soa](http://oracle.com/soa)

お問い合わせ

Oracle SOA Suite について詳しくは、  
<http://www.oracle.com/jp/products/middleware/soa/overview/index.html> を参照するか、+1.800.ORACLE1 でオラクルの担当者にお問い合わせください。

### Hardware and Software, Engineered to Work Together

Copyright © 2014, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved. 本文書は情報提供のみを目的として提供されており、ここに記載される内容は予告なく変更されることがあります。本文書は、その内容に誤りがないことを保証するものではなく、また、口頭による明示的保証や法律による黙示的保証を含め、商品性ないし特定目的適合性に関する黙示的保証および条件などのいかなる保証および条件も提供するものではありません。オラクルは本文書に関するいかなる法的責任も明確に否認し、本文書によって直接的または間接的に確立される契約義務はないものとします。本文書はオラクルの書面による許可を前もって得ることなく、いかなる目的のためにも、電子または印刷を含むいかなる形式や手段によっても再作成または送信することはできません。Oracle および Java は Oracle およびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称はそれぞれの会社の商標です。Intel および Intel Xeon は Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC 商標はライセンスに基づいて使用される SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。AMD、Opteron、AMD ロゴおよび AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices の商標または登録商標です。UNIX は、The Open Group の登録商標です。0614



Oracle is committed to developing practices and products that help protect the environment

